

新潟職能短大通信

〈総合制作実習(卒業研究)発表会〉

新年度がスタートしました。四月五日の入学式には百二名が入学する予定です。また、平塚校長が三月末に退任し新たに岡本校長が着任します。

ます。そのほかの作品もなかなかの力作ぞろいでした。発表予稿集に余裕がありますので、ご希望がございましたら当校学務援助課までお申し付けください。

ところで、三月八日、各科代表による総合制作実習(卒業研究)発表会が当校にて行われました。審査員七名による厳正な審査の結果、「五軸加工機による古代エジプト風チェスセットの製作」と「新発田駅舎と周辺整備計画」が優秀賞に選ばれました。いずれも完成度の高い作品で、発表方法もすばらしかったと思



作品を前にした審査風景



アルミ製チェスセットの製作



新発田駅舎と周辺整備計画

鶴吉(大倉翁)

「大倉屋乾物店」開店

鶴吉の江戸への旅は何故か藩主参勤交代の道である会津街道ではなく、遠く信濃路をまわり碓氷峠を越えている。峠では故郷を振り返り覚悟を固めたという。

江戸へ着いて間もなく麻布飯倉の中川屋簾節店に奉公している。鶴吉はもともと身体は頑丈で行動的だったが、将来のため仕事を覚えようと熱心だったので、店主の信用は大きかった。

しかし田舎から出たばかりで苦労も多かったようで、後年「私が田舎から出て来たときなんぞは生命がけだった。四方八方へ気を配って」と語っている。

鶴吉が独立して下谷上野町摩利支天横丁(現在アメ横)に自分の店

「大倉屋乾物店」

を開店したのは安政四年(一八五七)である。

鶴吉が江戸へ出て中川屋に奉公

「大倉翁と新発田」(四)

川瀬勝一郎

し、自分の店を持った安政年間、安政二年に大地震、安政三年に大風水害が江戸を襲い、また政治の動きも激しく安政五年には「安政の大獄」といわれる大事件があった。世間は騒然としていたが、この様な社会情勢の中で独立し、事業家としての歩みを始めたのだった。開店の資金は新発田で姉からもらった二十両と、中川屋から貰った若干の謝金であった。

この乾物屋時代に先哲古賢の訓言を集め自寫し、五十枚を一巻として『心学先哲叢集』と名付け、処世の指針としている。巻尾に「和歌廻屋のあるじ鶴彦しるす」とあり、実業家としての覚悟がうかがえるものである。



大倉鶴彦自寫
『心学先哲叢集』

「安政七庚申閏三月吉日
和歌廻門蔵」

新潟職能能力開発短期大学校
生産技術科 古澤 友祥